視点

文理融合って何ですか？



小柳　秀光
北海学園大学工学部
建築学科
教授

気候変動など学際的な問題を扱うことが多い現在，文理融合という言葉をよく聞くようになりました。これは，データサイエンスのように複数の学問分野に応用可能な分野を指すこともあれば，リベラルアーツ学部で，分野横断的に学ぶことを指していることもあります。また，建築は文系要素が含まれるとも言われていますが，建築は文理融合の分野なのでしょうか？本稿では，文理融合の意味と目的を考えてみたいと思います。

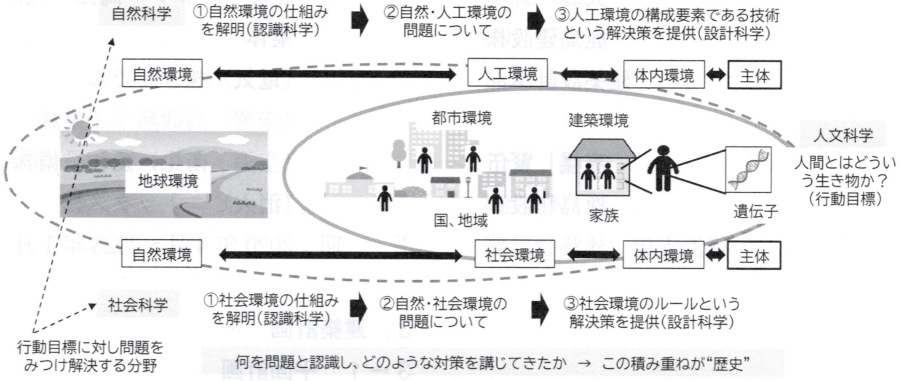
まず，学問分野の一部を整理したいと思います。学問は人間という生物が作り出したものですが，動物行動学の分野では，主体は遺伝子で，生物は遺伝子をより長く残すことを目標とし行動するという考え方があります[1)]。この考え方を応用すると，生物の活動は，主体である遺伝子をより長く残すという目標に対し，阻害要因を環境問題と認識し，その解決策を講じる一連の活動であると言えます。この視点から，学問分野の一部を整理したのが**図－1**です。いわゆる文系である社会科学は，社会環境の仕組みを解明し（認識科学），その知見に基づいて，自然環境と社会環境に存在する問題に対し，社会環境のルールという解決策を提供（設計科学）する分野。いわゆる理系である自然科学は自然環境の仕組みを解明し（認識科学），その知見に基づいて，自然環境と人工環境に存在する問題に対し，人工環境の構成要素である技術という解決策を提供（設計科学）する分野であると言えます。なお，人文科学は，人間の活動内容（例：芸術，文学，宗教）に基づき，人間とは何か？を解明する分野，歴史は我々が何を問題と認識しどのような解決策を講じてきたかの蓄積であると言えます。

以上を踏まえると，ある問題を解決するためには，複数の分野からのアプローチが必要なことも多く，文理融合の意味と目的は，各学問分野の役割と自分の専門分野の位置づけを理解し，学際的な問題について他分野と協力して解決する能力を身に着けることであると言えるのではないでしょうか。なお，建築は，建物とその集合である都市という人工環境を提供し，人工環境と自然環境の問題を解決する分野であると言えますが，人文科学が扱う芸術や，社会科学が扱う社会環境のルール（例：建築法規，まちづくりの合意形成）なども扱うために，文系要素もあると言われていると考えられます。

本稿では，学問分野の一部を主体と環境，問題と解決策という視点から整理し，文理融合の意味と目的を考えてみました。さまざまな問題の解決に貢献できる学生を社会に輩出するべく，今後も“文理融合”の真の意味を考え，実践していきたいと思います。

[参考文献]

1）竹内久美子，遺伝子と神について　そんなばかな！，文春文庫，1994年



図－1　主体と環境，問題と解決策という視点からの一部学問分野の整理